

■ On-Air 3000 ユーザーレポート

株式会社エフエム愛知 様

On-Air 3000



On-Air 3000 で生放送スタジオ「SA」を更新



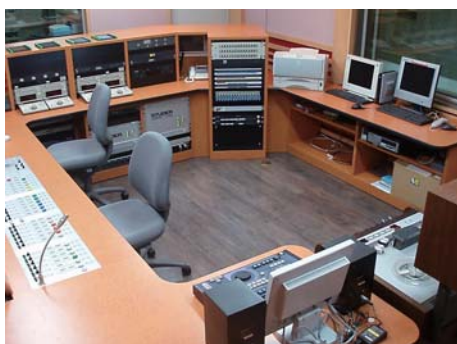
株式会社 エフエム愛知
技術局 技術部
櫻井 修・日榮 雄二

エフエム愛知 生放送スタジオ (SA)

(株)エフエム愛知では、生放送スタジオ (SA) の卓及び設備機器の更新時期を迎え、また内装の老朽化に伴い、2008年2月に前断的な改修を行いました。このスタジオは、メインの生放送で毎日稼動すると同時に、緊急時の非常放送・EMGIにも対応できるように考慮したスタジオ設計となっております。

機種選定及び内装コンセプト

音声卓の選定ポイントとしては、信頼性と安定性、サポート体制などはもちろんですが、更に以



下の点を考慮いたしました。

- ・デジタル放送に対応
- ・多数の局での導入・運用実績
- ・工事期間の短縮
- ・ディレクターやADなど、誰でも簡単にできる操作性
- ・必要なユニットのみで構築できるシンプルで自由なデザイン性

特にOn-Air 3000は各モジュールのレイアウトが自由なので、ロータリーエンコーダー・モジュールを無くし、シンプルなレイアウトに努めることにより、オペレーターも戸惑い無く操作することができる卓デザインを実現しました。

また、内装に関しては、窓が少ないことを考慮し、以前のスタジオよりも明るく・広く魅せることを第一に考えました。スタジオと同じフロアにあるイベントスペースに配色を合わせ、赤色と黄色をベースにしたコンセプトになっています。

新旧スタジオの違い

旧スタジオではゲストマイクの増設や、DAWの出力チャンネルなど、フェーダーの空きチャンネルに限界があったため、対応に苦慮することもよくありましたが、現在はまったく無くなりました。機器レイアウトについても、旧スタジオではMO・DAWなどを空いているスペースに随時追加してい

ましたが、新スタジオでは本体部分をラック兼用のデスクに収納し、コントローラーのみをオペレーターの周辺に集約させるように考慮するなど、操作性の向上に努めました。

最後に

稼働開始から半年以上が経ちましたが、改修済みの生スタジオは全くトラブルもなく運用されており、高評価を頂いております。残りの生スタジオ (S1) と収録スタジオ (S2) についても、同様に、今年と来年早々に更新が迫っておりますが、今後ともSTUDER JAPAN BROADCAST、日東紡音響エンジニアリング、TECTの各社各位には、引き続きのご協力をお願い致します。

